

3. 新たな民族運動の発生 c. 国共内戦の激化

①1927, 4[1 上海クーデタ]発生→国民政府と[2 共産]党のあいだの内戦発生（[3 国共内戦]）

②共産党、都市でのストライキ・武装蜂起を繰り返す（1927[4 海豊・陸豊]にソヴィエト政権樹立）
→短期間で崩壊

③[5 毛沢東]、江西省[6 井岡山]に拠点を設け、農村ゲリラ戦術をすすめる。



1931[7 瑞金]に中華ソビエト共和国臨時政府樹立（主席[8 毛沢東]）

④共産党主流(李立三ら)=[9 都市]における[10 労働者]のストライキ・武装蜂起を重視
→ソ連との連携を重視

毛沢東ら=[11 農村]における[12 反地主]闘争による貧農に依拠
→農村根拠地を拠点とし、日本軍の侵略との戦いを重視

⑤国民政府、[13 共産党]との戦いに全力を投入（「日本は皮膚病、共産党は内臓の病」）
→共産党勢力はしだいに追いつめられる。



共産党…江南の根拠地をすて、国民政府軍の包囲を破り、退却戦を開始（[14 大長征]開始）

1927年蒋介石の反共クーデター（[15 上海クーデタ]）以後、中国共産党は都市での武装蜂起をくわだて、1927年には[16 海豊・陸豊]で最初のソヴィエト政権樹立に成功したが、短期間で崩壊した。こうした情勢の中、共産党内で台頭してきたのが[17 毛沢東]である。かれは江西省[18 井岡山]に拠点を設け、農村ゲリラ戦術による農村根拠地づくりへ方針を転換をすすめ、1931年には[19 瑞金]に中華ソビエト共和国臨時政府を樹立（主席[20 毛沢東]）した。これに対して、国民政府は共産党勢力の鎮圧に全力を挙げたため、共産党勢力はしだいに追いつめられ、ついに瑞金を脱出し、移動を開始した。

⑥1935 [21 遵義]会議、毛沢東、[22 周恩来]の支持を受け指導権確立

1935[23 八一]宣言を発表＝「[24 内戦停止・一致抗日]」と抗日民族統一戦線結成を呼びかける

⑦1936陝西省[25延安]に拠点を移す（長征終了）

共産党勢力は1935年の[26 遵義]会議で[27 農村]における[28 土地解放]闘争による貧農に依拠して日本軍の侵略と戦うことを重視する毛沢東が、[29 周恩来]の支持を受け、[30 都市]における[31 労働者]のストライキを重視しソ連との連携をすすめるようとする共産党主流をおさえて指導権を確立した。

この決定を受けて毛沢東は[32 八一]宣言を発表、中国人民に「内戦停止・一致抗日」と[33 抗日民族統一戦線]を結成を呼びかけ、また日本軍の前線にあたる陝西省[34 延安]に拠点を移した。この1万キロにも及ぶ大移動を[35 長征]という。

⑧国民政府は、対日戦よりも共産党への攻撃を重視→国民の不満の高まり

1936 国民党の[36張学良]ら、蒋介石を軟禁（[37西安]事件）
→共産党の[38周恩来]、両者を説得→国民党と共産党の接近へ

⑨1937. 7. 7 日中戦争の発生

→1937年9月[39 第二次国共合作]実現＝[40 抗日民族統一戦線]成立
＝共産党軍は「[41 八路]軍」「新四軍」として編成替

八・一宣言は、多くの中国人に感銘を与えたが、国民政府の指導者[42 蒋介石]は日本との戦いよりも共産勢力との戦いを重視し続けた。これにたいし国民党の[43 張学良]らは蒋介石を軟禁し、内戦停止を強く迫った（[44 西安]事件）。こうして国民政府と共産党は接近、日中戦争開始後の1937年9月、ついに[45 第二次国共合作]が実現、共産党軍は「八路軍」「新四軍」として編成替され、日本軍との戦いの中心となった。

4. 日中戦争と中華人民共和国の成立 a. 日本による侵略の本格化

1914年、第一次大戦が発生すると、日本は中国にあった[46 ドイツ]の拠点膠州湾（青島）を占領し、1915年山東省のドイツ利権の継承などを内容とする[47 二十一カ条]を強要、中国国民は日貨排斥などの反対運動で抵抗した。またこうした日本の動きはアメリカとの対立をいっそう激化させた。しかし第一次大戦への参戦を急ぐアメリカは1917年[48 石井ランシング]協定でいったん妥協、1919年の[49 ヴェルサイユ]条約でも追認させた。しかしこのことが中国での中国の反日感情を刺激、[50 五四]運動を高揚させる原因となった。

アメリカはこのような日本の動きを抑えるため、1922年[51 ワシントン]会議を開催、この場で調印された[52九カ国]条約で日本が大戦中獲得した権益は放棄させられた。

日本はこれ以後も安徽派軍閥の段祺瑞や奉天軍閥の[53張作霖]らと結んで中国進出を図り、国民党の北伐への妨害を図るために[54 山東]出兵を繰り返した。北伐軍が北京に迫ると、北京から逃れてきた張作霖を奉天事件で爆殺、東北部の中国からの分離をはかったが失敗に終わった。

日本の東北部を分離しようとする意図はつづき、[55 1931]年9月18日[56 柳条湖]事件をおこし、これをきっかけに戦闘行動を開始した。これを[57 満州事変]という。そして翌1932年3月には日本の傀儡政権である[58 満州]国建国を宣言、執政に清国の最後の皇帝[59 溥儀]を就けた。こうした日本の行動に対し中国は[60 国際連盟]に提訴、連盟は[61 リットン]調査団を派遣、調査団は日本の行動を自衛とは認めず、国際連盟でもこの報告を支持したため、日本は連盟を脱退した。

日本の中国への侵略はいっそうすすみ、1935年には内モンゴル・華北の分離をねらって[62 冀東防共政府]政府を樹立するなどの行動にでた。そして1937年7月7日に発生した[63 盧溝橋]事件をきっかけに日中の中での全面戦争に発生する。これが[64 日中]戦争である。そして日本軍は、同年の12月、中国の首都[65 南京]を占領し、非戦闘員を多数含む人々を殺害、世界から強い批判をうけた。